



志茂田景樹
(作家)

落葉は今一度青空へ
帰らうと思つてゐる。

金子光晴の「章句」と題する詩のE章
の末尾の言葉です。

落葉は自分を創つてくれた母樹の滋
養になり、母樹をさらに成長させます。
でも、僕はたとえ地に落ちて身は朽ちて
も、志はいつまでも朽ちさせないぞ、と
いう落葉の気概として理解しています。

苦しいこと辛いことは生きている限
り、またかと思うほどやってきます。そ
のときに敢然と受け止められるかどう
かは自分の気概が健在かどうかにより
ます。晴れた朝、よくこの言葉を眩きな
がらウオーキングしています。